

●国内Bコース

「山梨県小菅村におけるサステイナブルな山村づくり研修」(担当：小島)

1. 目的

2017年3月に締結された法政大学と山梨県小菅村の交流・連携協定に基づいて、多摩川源流地域の山村における持続可能な地域社会の可能性を模索する域学連携事業の一環として実施します。

都市生活者である学生が、村人(むらびと)生活というライフキャリアにおける貴重な経験を送りながら、行政、NPO、観光ビジネスという3つの領域で研修に取り組むことで、人間的成長の機会とします。

小菅村は、様々なチャレンジを展開していることで有名です。従来からの、イワナやヤマメなど川魚の養殖、こんにやくやわさび栽培、村営温泉、道の駅、アドベンチャー施設の建設に加えて、地ビールとジビエ料理など新たな食の魅力の開発、住民も参加する観光地経営(ディスティネーション・マネジメント)にも取り組んでいます。

人口740の山村ですが、定住人口の維持とともに、観光などを通じた交流人口(3分の1村民)と、むらづくりにかかわる関係人口(2分の1村民)を増やし、多摩川源流域の環境・文化の保全と地域経済の振興の両立を図っています。

これまでのチャレンジにより、毎年、環境体験学習で多くの子ども達が訪れ、近年は山村留学のための家族連れの移住者も増えています。そして、法政大学を含む東京の複数の大学の学生も学びに訪れ、地域起こし協力隊により新たな人材も集まってきています。

2018年度は、2017年度をふまえて、木材の地産地消と移住者・来訪者の受け皿となるタイニーハウス(小さな家)やリノベーションしたコミュニティ施設の活用など、新しいチャレンジも体感しながら、他方で、伝統的な集落の祭にも参加します。限られた期間ですが、サステイナブル小菅へのむらづくりにコミットすることをミッションとします。

2. 受け入れ団体

山梨県小菅村

3. 対象学生と人数

2年生以上で6~9名程度とします。※むらびと経験は全てのコースの学生に推奨します。

4. 行程

泊8日※研修期間中は、全日、小菅村に滞在することが前提です。

・8月28日(火)~9月4日(火)

5. 参加費用

自宅から現地までの交通費(JR中央線大月駅から路線バス)のほか、自炊費用(1万円程度)+村内生活費の合計で2万円程度の予定です(ゲストハウスとして活用している古民家に無料で宿泊します)。